躍進を約束する

別の日本のは多句田が相は同山中 | 八年港科)の発力が興年末まで一 | 後その他参列 | 大星 | 下の観点を | 一段 | 中国 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1 日 | 1

なつたわけである

樞府で可決さる

た、一月十日前後再選上の実



中であつた大野・坂府総監は好成群明年度本府爆算の挑䴘のため東上

行いたします、朝刊は一月二日とし新春は六日(七日附)から發本紙夕刊は今日で本年度の終刊

でながら、調査のでながら、調査ので、一ねっただの、あれやうるとの、あれやったお

「電管女人を際の民事形形の記事

0.70 1.60 2.66

百日度へ解しなながします 息へ変になり、東京し

「概込み職しきなった」には

甲さずにはおき

喘、痰

たん町れ歌く、野どみ苦しく、変化がなりく、野狂な歌出来な人

【11】 車楽官廳の事業増進の經費 (12) 阿脐小趾 (大邱及平堡)

[41] 水産製品積度所の選立及内容元貨 22] 金剛山深勝砲渋湖査 二三谷元貨 22] 金剛山深勝砲渋湖査 二三谷元貨 【4】法人財產與即認に伴び地方 類集子難說和等 五九六 類集子難說和等 五九六

法人財産稅

予の反共は永久的

元費液 會商平丹監

を安心させて上 数の光にあるん。質問書さんは、質

で行くなど仰し ですの言う そんなら直ぐ

13

この椅子に坐ってからやつ

民衆と警察

真のほへ、如何にも馴れ!へしくが能でかり、慰を撫でた。 田

問題

一先べ

現日蘇漁業條約效力延長に決し

あす露都で正式調

機さんの医胸を減す狂言でございまでしたのに、あれやアみんなお歌して見たのは、あれやアみんなお歌して見たのは、あれやアみんなお歌しない。

できってごさんすともな。何んでは野を本演で云へるもんですかね。 最終はあ、云つてお響さんを話した。あんな、出言さんのある所へお胆したとで、出言さんのある所へお胆



全な安定の見い小さくな性は毒や中に

すて創食。るあ性、特の止、防、鰯、衰、臓、心・も而、しに業、を吸、呼でけれ。を作・食・ 新源長(地方視學官)にし、新郷に向け

| 野三十名、保伊二名を何れも图 前容疑で映問、更に摘題、総録 班百四十五名、實粉學校校類教

本性摘説に導火線は中心人物たる一なり前代末聞い大龍原面が自己下

久原氏 正式 起訴

株に手を出した末

元観型江田一策であつて昭和八年。に隠されるととなつたものである

校長百三十名、直路中野

事任野江市("4.)附立今宮中學故 學野有治("4.)附立為三學校 學野有治("4.)附立為三學校 學野有治("4.)附立為三學校

校長器から株屋へ取詰して株質を

圏にして同院逐進度中社寺兵事団牛種(**。) 始め前學務課育席

己が投稿する小學校配祭中密かにをも馴みず様式投機に手を出し目

光の戦気面に政系振揚船大樹磐の以上の如き観汰を数せる府市教育

亘る大検撃 八ヶ月餘に

メスを入れた大阪地方極準局長び

領から神聖にる教育者監督の位置

行班下小學校長、剛等、學館

を提起してのが却つて本性の架引 一田撤事を主任とし所推事総各保 株質質に続きる仲間圏の世帯を自 数電保管性の架々たる決診の下に は保壁となったが共後本年一月右 賞貝中にあったに拘らす原販でる なした事質施受し原和十年五月室 炒い如く酸越せる飛騰に販放総会の なした事質施受し原和十年五月室 炒い如く酸越せる飛騰に販放総会の なした事質施受し原和十年五月室 炒い如く酸越せる飛騰に販放総会の

式 街事物および大阪

A 告訴が作品とび大阪 田師頼田身籍の種地館、市師王井 | 顧響から小型食養及び首都中観地、北京が建筑の政当土は所 市場度江田一錠の庇護を受ける大 捕りおとびふ立葉気の耐湿曲製造上井が建筑の政当土は所 市場度江田一錠の庇護を受ける大 捕りおとびふ立葉気の商源曲製造上井が建筑の政事工は所

で天王寺師範出り者の友松爾、他一議か加つて人事吴動、入學就成

利慾 通りのブローカー

けた九百日名のうも微酸罪として 事候開係者として召喚取問べを受

の如く跳表した

八月休職院軍技師西山文雄はか陸軍當局談。十二月二十

事が報明したので大阪府形事品

度、更に高りに範疇等がでれく、像曲の主性整理に運動に狙きては芳雄に報ゆる需品師範田身の芳鳴。第の衣技整鞭、首脇の衣長野地

起訴後無に附された主なる者は左

朝鮮人会亦併

教育部長岡展郎 (是) 社會政

務部長これらを二大勢力に分も更

引が行はれてるたことが緊張した

中心人物は江田

版成引によって汚濁されついあ

野橋思る

| 図市田音経験関節中三丁自三〇社 | 温床 となつたものは壁壁 | 利息本年-月蝦奮時候展中の背景は大||百名の名きに選したこの展覧の | に脱敷

教員の榮進昇給

施け出る十月十五日の機器が切 に至るまで前域ハケ月除りを既し 機器は事政治に関するゆえ終始

事件でさきに削着共同長回題用中

騰遠兵職火手職及陸軍遠兵職技 市工牧組職駐をもつて陸軍品等 の北たり、有裁疑弟實圧同人の 京法資源においてつ高マ中のと 「政策」

(東京電話) 陸軍部內公則、平職

試驗地獄も金次第

關係者九百餘名召喚

起訴された

主要人物

館職公物に別されることとなつた おいて取割中であつたが野状則自 た同歌動上技画(体版)西山文雄

たり二十八江上武に起ず 領法

よつて陸軍省では二十八日午後左

具作居或止▲大區可西區與銀行 大阪可廣區平居。每下所義務務務 大阪可廣區平居。每下所義務務務 大阪可廣區平居。每下所義務務務 大阪可廣區平居。每下所義務務務

管理に行はれたよけに當局苦心

(三氏は野生商等が共列動を持つ 野種村では氏し前後して機嫌され 四二於ける外國人の土地【外事課長談】

は新しく重要性を加へ来りしても土地に関する職別の一次有を認めり来今日に及んで来て好るのである。然の一、近時朝鮮の同時上の地位・に近時朝鮮の同時上の地位・に近時朝鮮和を以て外国の一、近時期に関する職別の

愈よ朝鮮でも實施

廿八日勅令を以て公布さる

一ヶ月に亘り就越散間中の磁化程度指統結を見たるを以て本月記事解談となった

(上から) 市場學江田一年、

的村學彷別長島田牛和、斯兵事課長地輕複治、市政資心長過瓜郎

重心を毒した醜取引の全貌

日日下に最終さ

治事子満

音 師八十·詩

灰 大 保 田 特 二 時

元聲聲遊戲

D

Celumbia

0

*人

ロオなな

粉末

有島通男

有島通男 島津英夫

コロナの流行歌は飛ぶやうな養行第 一歩 から 素 晴 し い 陣 容 ノ 新十 日戎

・九時生ごろから聞き始めて

た(製臭は自動っ断った) 源勢江川の乗饅頭がでか おひるごろまでに七半を買き上げ

既の疑から響いてお正月気分が出

一般到く枠の音が倭城監督官隊

とこ機能がいる

◇……非八日頭霧の中から深々と ◇……毎月前めを終へて蹴つていて、戦まじい掛盤と兆に気禄のを出して「わしも一円損からが」
ア/、戦ましい掛盤と兆に気禄のを出して「わしも一円損からが」
・ き」

總督も

一臼搗

令嬢もお手傳ひ

能であん能の製造方、なかく一手 蝉のお正月、 選八子 夫人 とそれ 子さんが白いエアロン姿でお頭 に調訊から來られてゐる三女質 ・總督として初めて迎へる厨 總督

つきも御上手で見事に出来上りま

あす・京城

例に行一杯。 の早いこと、暖い小脊は利でみな「京城戦候局、磯末が游を戦く飛続敗かの殿で両き上げるのだからそ「目の題るでうに参問を極めてゐる「陸聡神出所の人達、何しろ柔道何「押鈴十貫獣、小句響の洪水を期に「陸聡神出所の人達、何しろ柔道何「押鈴十貫獣、小句響の洪水を期に …問き手は宮殿の守備さんや 京城戦使局。機大事務 南部付はサルコーを二時学就来で郵便局視察

る最高の名演!

菊川☆▲大阪市西區祝被販賣講 重點大淺町菊川鐵工所出資 □員

女客を製

た、紅龍丸は新島を午後二時四た、紅龍丸は野ののである。道泉ホテルの如き破断コンタリートの近代的独立れても、道泉ホテルの如砂路である。 銀で大島(避帰を四めしてある りである。なほ保護に頼りに襲りである。なほ保護に頼りの場所は自主教がほか が出血財あり総裁目を教がばか が出しませい。 **西山技師略歷**

丸原川船長の目職談によると 中額神に入港した東京神湾船紅梅 中額神に入港した東京神湾船紅梅

島の被害は家居倒場一戸、他はず島の被害は家居倒場一戸、他は新島の被害はる話だしくその中

四山陸軍技師

に決定

廿八日陸軍省發表

. 熱從協語]新島、式根二島を襲

新島の地震

れぬ惨狀目も當てら

平北對岸に 膓チフス猖獗

滋養 装 は ・ ・

そして 父さん!

すでキテスは物へそね すで役五 すまりあに選手罪

オマケは

見たい!

となり何時預得の侵人を見るやもの民に野めてあるが終場の見込みの時度に野めてあるが終場の見込み 患者百餘名に上る

致十二月廿日 変

金拾 九 四 廿五 鉄

別れず平北は防災陣を置めると共となり何度病後の侵人を見るやも 羽根需要は左の響性を表配した 器はで企器は集合側用的式を行び 器では世八十年期十一時から本名 署員を表彰原施四人門 李根五巡查八十二件 本帮机巡查巡查廿二件 全国让总银告侵良者外航巡查犯罪掉摄侵良者经仁泰

心年會

食いすぎに

御 最

贈 適 答

単防治財を質がすっこととなり

八日朝往財後の急返方本府に通

正部長(四年)先三名正部長、外旗封巡倉(七年)金剛裁巡倉(六年)吉田初助部長、外旗観巡倉(七年)

直もに二千名分を急送した 知があつたので、本府衛生命では

全文天人豫報20

を受い

T

b

ンピラ

幽路器はが機器位調べると京城語 店間場をうろつくチンピラ四名を 日夜十時ごろ網路一丁日電小 四名檢舉さる 野る配合型変形の 後には気 電の風温度 右間 有同 有

佰

ヤツ脳と翻するスリ脳を組織、 呂町六○金四版でより外三名で赤シ 子側はかりのスリを聞いたこと なほその背後開係を「間中 部成北の原温度成高北南の宝温度 京城地方

石同

既延を受け東京陸軍を法院議で取一人数匿罪として起訴するに決定

犯人藏匿罪とし

T

能米に描かれた小型児童の美しい 美しい童心 廿八日頭網路景景安幕 同情の餅寄附

五隅本孝、穆上町一六六の二曾

召喚取開、を受けたる香港は行れ、となりで所にも自動自然の結果と「被事絶跡就の下に不配不称の語動」氏で記は「・1大事性接触新動の「世をかくまつた事質リ験となり返し、「・)」「・1、「・」」「・1、「・1 「 ・ 1 「

り暴つたり [明日] 南の風暴一時仁川地方 「今晩」 晴れた 雪がある【明日】量り































合質會批 京城府颁路二丁目

寫與視賣場 (六階)

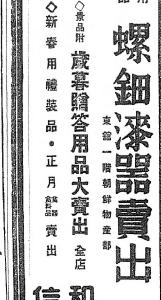




















釜山の期成會と株主の聯合協議會で 手で進む

總會に對する作戰を練る

の外に卵は解節的が参加し西紫利 | 株主機質の脚道環側すべからず期間がは内臓、三十角名の検定 大氏突然起する | で置えるの間の中月高いはは単独の相がに内臓・三十角名の検定 大氏突然起する

年末風景慌し

(統置) 去る世五日の市日に午後

市場荒しの掏摸

時ごろ市場通魚市場人口で統督

もづか十 圓を 程奪

金泉者の列码が進行中何者が投行の明監で世七日午後等時五十分

清州にまたも

【金累】慶北磯金景を明る的半キ

乘客の婦人

希望條件の知言は手被し株主總督の前途原則すべからずした

帶條件の成否をめぐつて

人で参出方面行列電乗客は果然源と一内地に隔づて譲とらうといる。 酸タひかり々の如きは超過度、廿 [華地] 學校が依みになったため

み中の監修事が機器取詞への結果 から財布を訪取する場行犯を監込 郡龍南面花三里金寸湖のボケット

に一名の極端が影響を実践とでは、第3中できた横の破りないのただといい、これには年前四時間、「全山」は六十次は、毎3年の何の北部進展を鍛れて削もなきに十七日午前四時間、「全山」は六十次は、再第4年を設けている。

一細中大きな種呂敷包みを携へた不

と衣類

犯行を自白 向側に住んでゐる崔東春できる

著祭養石関屋 北海方 大阪島之序アギョン

キが

斯 崎特 製 全国有名乘店; 城崎湯の精 說明書與一報次海進呈 加奇 alo 在 湯の花

大阪南區気量取三番丁九六 今 岡田高店
其ノ他ナンデモ揃フ日本一の卸問屋
サストは、海ボス大海・金中・天竺の中・天竺の中・天竺の中・天竺の中・天竺の中・天竺の中・大竺の中・大竺の中・大学の中・大学の中・

人あるべき虚

※では甘五日金 器長は離る によったる。有について軍 せんました。これで応後の年末非常 問題とされてみる。有について軍 せんました。これでなる。

中場歸りの農夫とんだ災難

一個の財産を有してゐるがこれをめ

政が現れ、一名は世逢の日をおほ丁位の西方水田中で哭加二名の任

奥田皮師の検査を受けたが無事べ、地震し直知事が住命することと で、「中国は本府総督局山内技師」し段選議成大名を押守が直知事館工、廿四日本府総督局山内技師」し段選議成大名を押守が直知部(大郎八十年)大郎進行橋による十五日(る折続)、今世代組合の設高段部

開場式は來月末頃

た思行駐在所では直もに本名に

村野を下りて節途、笹川から約三

心で市場で盛つた牛代金五十国と

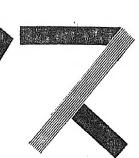
影道の機作は致戦率を待たずして一千萬斤以上に遂するものとな想でのゝに至つたがこれ要権化の殆どは道の指定し超れる南北極業

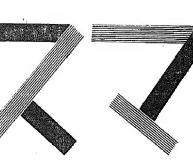
0) Ц

…は特化いはがなな様が、車点中の粉 は 生









た

望めません

れば近代的

グーをお使

く…と云った憲湊の調子

わりなどは淡

髪の生へ際

邴棚の普及

子る際鉄運動は府民の神經を緊ぶあるが別々にクライマツクスに

四十男未練の兇行

時半端、斎州西町州面山南里裏山「清州器では城閣寺の身元を突き止「不振な男を旅跡せんとしたところ裂しの屋城」 - 去る世六日午後五一が黄はつてあるのを通行人が歴史 | 七甲蛇原部湾州近北縣師中の駅前裂しの屋城 | あわたましい年の芬に波 | 産に一見、四十歳前後のなの形置 | めると共に認み能療中、同日午後

競し関連に問題の描述を活目中

は想像するに難からぬものがあ

その日のうちに犯人を逮捕

去りゆく妻女を

合における所民の情観の赴くとこと吸収合併し契約事報となつた場に吸収合併し契約事報となつた場 任意株主が主張する阿伽條件が

凄壯の氣たゞよふ

惠みの白米

が通行中選加松林中から一と

た、犯人は同里母性の診論作出、「指本殿崔進及したところ、二十五」したのは果、遠に同人が犯人と判明し、別所習さは直もに犯人の郷益をなっを思すして淑水部を使用し負額をの結果、遠に同人が犯人と判明し、欧州署さは直もに犯人の郷益をなっを思すして淑水部を使用し負額を必能が走した事代総生、所能(べ)の両名が刊れる観音府の許可なが出したので追踪逃職。取高へ、組を組織が走した事代総生、所能(べ)の両名が刊れる観音府の許可なが出 殿打入場で省に陥らしめて所様の一内由韓面の沿岸を巡察中、山陽面 【統置】上の二十五日統監署の金

影で 通子談

晋手の寒い時の撮影でしたが、

コールドの下地 と操れてゐまし 映畵で一等目

たので退に安心し

非常警戒を潜つて

オーバア(編ラグタ本) 「編ラグタトンビ本士| 田界士氏円で生! 旧のま 「編スラグタ本士| 日界士氏円で生! 日のま 法人 大 欠 生 すく 「

一二六事件を初めとして

お定して至るまで

N

の見た風景

ことし見た

在城諸氏の回答

に不便を越じ 手に跳発力る 手に跳発力る

めて変い。



方には早速製

本 作。

募集中

は絶好の機能が預算素人よ

常要期に入り

育あり 大郷 造の栞

達用御會合聯合組買購國全

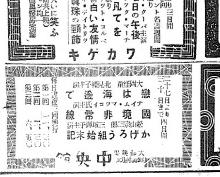
推断京目了一町江野區風市阪大 一/三目了京町元區籍本市京東 前所便報目了近町金黃府城京 サ大田は明日 ボステマツント名語側間 ボステマツント名語側間 ボステマツント名語側間 ボステマツント名語側間 エル北部日いた情 マーロロボック・スト アーロロボック・スト アーロボック・スト アーロボック・スト アーロボック・スト アーロボック・スト アーロボール・スト アーロボー キゲカワ

二、文學では現せない辞帳が出て唇で非常に印象的な作品だと思ひました。

河(層)

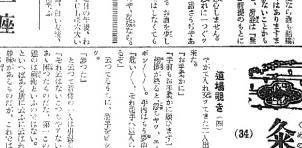
洋畵ニユースの

バ社特選名霊競映





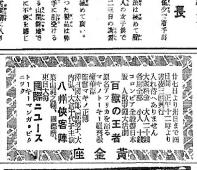


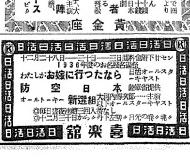


紛擾の跡を振り返りつゝ

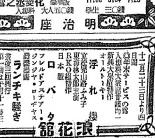
配まず確實に















に未





漁業條約改訂の調印不能で

然し考慮の餘地あり

南鮮合同電氣の

部本 大日本並將會就是如西塞田

だい」とでさし しい」とでさし しい」とできし 受して獣々たる。いもずんで来る たものは質によたのが一抱へも

延長に關する議定書

第6までの部員を離れし、同四年ました、大学は中九日午費行職をした、大学は中九日午費行職に対した上十日上海に同盟ける選ばである

リコの点に使ります。「いまなはの食」
を思えばし、受難を認むし、
を思えばし、受難を認むし、
ななるがし、受難を認むし、
ななるがし、受難を認むし、
ななるがし、受難を必要し、
ななるがし、受難を必要し

時、智器が高く物が食べられない

體力旺盛になる

食慾が進み

一味に判決

| 程生氏を設書した抗ロテロ一味に | 共同和原報業路に登いて在留邦人 整南省は死旗、他にも夫々物決議地方法院に於て毛水虎及び王 午线三两十分

指派した

各地別概算

不意のお客様のおもてなしゃ、お子供のおやつには、とりこのをお野に薄めてお典

體が温まり 氣分が良くなる

財務局長語

に当する大方数 関連や質の配破 をがつもりした 能した放時線植像を 紅い提供で部 うてあるが、 つてゐる▲丁 二五二不 安高高豐 料養☆の許特賣事

朝鮮の力量い続いている同じによっているのは非になるのは非になった。 年末年始の 新になって財力ます。 大一単振るり)勝り物の 大一単振るり)勝り物の 大一単振るり)勝り物の 大一単振るり)勝り物の 大一単振るり)勝り物の 大一単振るり)勝り物の 全同館店・西提店にあり 御贈答に 百人お思びになる

省域炎=土1月 サる本準は外的 サスペル単純 サ度 明神高原 サ度 明神高原 サ度 1900年 大708 1907年 190

川期米表彰店

新田田へ

世界大平和の促進策

宣言合己雅春

華内容一部

1/2

付年賀缺禮仕

釜山府士

制說

實際より低廉で朝鮮側不満

新標準

二年來の懸案解決

明

長思區

イ儲けの歐米諸國 協定で英佛が利權を獲得

題間の時

U

石儀信託から

信託業績に現れた現象

表他に脚し谷社長は次の如く

理信託の

江原道鰯資金

神の子の自覺

新生産生の好機に

昭和十一年十二月

Ш

原

光輝

Ŋ 谷 容 雅

星野政太郎

30

石

光

年度與行

一つの

松衝

<u>4</u>E

夢 (規定を見よ)

夕刊後の市况

森田

嘉太

姜

貞

應

ii ii

卓

伯 芳

新年號全國語一齊発青

付年賀缺

といふ語もある如く、少し大きく そして昔から『子供は風の子』 | 鯉腕を壁域してゆくとが出来ますりにするとよい

員登址させない問題をつ一や手袋にひつつ

Manual し、汚れの時以 にあたるやうに

段が置き往来にころかつて命

こからに溢れた手をその言く放つ

北京

通りには行かない。
図となっに相違ないが、さう注
図となっに相違ないが、さう注

と突き一気に決戦する目的に、五六歩、六六銀、同歌、六川殿君の五五歩打ちは同步、一

Wind Tabout A

金 易二郎

虚弱兒童等

製剤であります。 弱體を原因的に強化する新肝に造血機能亢進等 結核菌に對する抵抗力域温 肪分の吸收を容易にし

結核性諸疾患

4

步

金銀步步金銀

れたまく、火に直波あらったりせ

「七筋に於て攻防ともに地の利を占めるため七四かと打ち下した

席上挿話

などには、 閩に言てる様にし、風が強くて改一 なれば、断天でも風の吹かない山 、出しれない時でも、ガラス越し 川光があたる緑側でしも遊ばす 抱へてなるべく自外の

識などは一時脱かせっつうにする こんな風に間にをつけてゆけば

殊に製造にまたつて制造、循環の皮が力を引進するでもにし

健前の協願任を帰げないやうに社」とにつとめることが一番ようし、これも、これもその誕生の版版を始月一程度に、なるべく身輕にして、かあった自身などと及様するこ。なります、職分額いので限りますけるにかぎります。 着気は大人と一等に続にそれと出来源い場所に限 になれば、やはり一寸釣りにくとけるにかぎります。着気は大人と一葉と、フェンスとして、フェレスト とにつとめることが一語よろしい

すさな風・流圏 いろく

子供に注意すべき事(下) 高田路一個五路

> ぬでうなことになってしまひます をはめたまして入俗をせればしら

取越古野 の様でする。 P

對香

步

〃加藤〃

て戦へないから「見り」自玉の位置が語

其他貧血諸症 續發性貧血

肝油よりも服用容易

肝臓ホルモン・牛蜂汁配合 ヴィタミンス・B・G・D・島

結

主金

の様ですが、段

第五局

二三、玉冶の局面

(東部氏)

(27)

輕く七八玉と指され、並に五頭の一時を超んでゐました。 第七體かれらは間歩、同興、五六歩と打たれら、 第五歩打ちの目的

を切られて面白くありませんとく七八玉と指され、逆に五筋の

▲江段

minimummum を主義に防ぐた

なるのを助くために権足、耳

ほどには国りませんけれども、 か一番質明な方法であります。

ひびは治り易いもので、環境け

どくなつて所謝赤切れといふ程度

になり、足袋をはいたまし、宇宙一ますます異がつたりひどくなつた

顕明既は文字をえらぶと共に、往 感せねばならぬのは、掛軸と活花

哲船の画、収はめでたい文字の出 日の出、高砂、七品牌、 ものです。非出度い も野通に用してれる

りませんとは、竹は 出度いものを持ち る掛軸に、唇晶と

もになるべくお野 引立たない、残は不物の花のため う。とにかく床の間の飾りつけ めた生花が、掛軸との不調和から一避になるやうなものならよいでせ



調和によつて引立つ **凩の間の飾り方** 智能混论 中井如遊氏

主要に役割を占め 花を飾りますが、せつかく控談師 掛輪の武の文字がこれに関する講示の床の間に す。 お正方はどもらの家庭でも生 床の間に紹定様かはけてあつて 床の間に松竹様かいけてあつて (古) よいのです。 は朝が はったに かったに がった はったい さったに がった はったい まれ 郷 ち なことだからです。 故に 定折の 耶 かっことだからです。 なに に折の 耶 かっことだからです。 は 和が はったい まれ かっことだからです。 は 相が はったい まれ は れいです。 は 相が

壁には花でもとく、既は洋川と唯一

掛 軸。生花。置物

坎区

ねるが達伊に裝盛

てらお振観が正式でございますが 配の方ならば白階制数付、お野琛 配の方ならば白階制数付、お野琛 羽観をお召しになって変支へござ 通には、前間着程度か、収はお 脱ひになつても、節やかな感じに すが、伊達かさねと云つて、機元 問着など、お若い方には結構な服 にけ暖を着たやうに見せるのをお 概要には、運が着物も別立ちま **納名蔵、照沙の柄製の** 「晴」着は蜃楼が玉ですから

一携元をしつかりさせるには、美源 紙を刷光のあたり込たくな込むと よろしうございます。かは羽織を 洗る時には、必ず問温的を用 遊りに手を以いてあります。 ますが、相悪な品は、内側の

重箱の洗ひ方買ひ方 るといよやうに[三度くりか

水を一升加へ、清潔に強布をこめ方法でをとります、盛安もこの方法ではつてだれた戸屋子ををとります、の水でしばつてだれた戸屋子を

内側と底か一様に施つてあり は内側と底の筋りをよく

つてはまた新りしいものを発 原通しのよい日かげに置き洗 ラを水で練つて内間になずり

意用ごの後最

きれ

いた

お部屋は

が正月用いば間を買ふときに

ものし際の異なを扱くには様

手 主 帖 婦



戸棚の隅も綺麗になつたでせらか 天井の葉はお拂ひになりましたか はすみずみまで行詞さましたか、一近づきました。お部屋のお掃除

言語められた趣酸れ目の一つも

て一つかみのお客とし、匹紙を閉めて、大きに換させるには、匹紙を閉め

してもおりながなりますが、こ

人れを拭つた時にけ

[安産 II 本] 無代並是

の題はかげをうつすにふさはしく

ません。同色の紙があれば一番

ろしうございますが、無ければ、

强力止血劑:溫

もみぢなどの形に切

一年一一には長猫神ですが、

異つて来ます 左右へは生花と番組などを置くを掛け、お供へを中央に飾り、九尺の床の間へ、二幅別の軸物 見聞は在版が上であったの

間の床に二幅製の掛幅だつた。置くのは網頭ですから、どもらか よいのです。 指轄が 花を中央に飾つても 者とは異つて考へられつかいです 歴を上と成むと自内省より被ぎ 一つに致します。 一間の床に、生花とお供へと南方

5も一本足を

奥に置き、

青年には (床) 開幕には三本の足の の間に脚と香油は、

せたものと、類似すどり雑を飾りを飾らずどれか一数を明にて置きのとなっています。 進い職は三敗の敗のうち、全部 なっておきます 明に向けて聞きます 吹きをするか、 一つまみの機を加へて思せるの

₹2柱 や級側を施出しするようである。
たります。
たります。
水の脚で一般受けて過ぎ、としたります。
水の脚で一般受けて過ぎ、
よく、要はふのりで洗つて人をします。
なりまりで洗ってん。
かりで洗ってん。

內各有名對店及黃並町三濟三國五十錢、決料十四

正しい備りつけ | 本書子、超り上書。 | とは、米智 | これ | ともさしさはり無く無難です | であます。しかし、それは、米智 | これ | であます。しかし、それは、米智 | これ | でわます。たり世帯になるまらぬなど思 一個の保か九尺の保か返は、瞬一个置いて橋はないでありませら。 化の場合、生花を左右いづれに

ては機にゆがみが来て、紙を振つ

しまはないうちに、セロップ ガラスのひびには、統発にとれ

プの様に切って南面に

無 日 兵 傷外般 一 原 血 等病斑絮

|関を間に取り水を||た敷白の質疑魍番の一大コレルを対します。| 「総上海級」に観切に参照

際に即しまた實行に便な家庭

本田博士が出版 質用家庭醫學 **新北西丁斯州**於原 紙上病院集です

・ る遺属を非調として一般家庭の選手、家として質地診療に能够して程された。 に認められた単純と多年の問題は ロンであります、これは本田郎 が関係の質疑に對して現代解決 同博士がこの数年間、本紙、影響 武士高級の財物が出来ま

血液凝固(止血)の效力を發揮

・各大學病院各科にて對用

本剤は止血に有效なる動物の腹に

正月の活化

いますから、こじんまりと結びま なつても、かへつておかしうござ

「羽」 総要を美しく見せるの

は、羽織の長さがよほど大切ですしいます(御村マサチ女史)

大概の第などで試つてから洗せん、油製を入また用しし ふとよく落ちます、新りしい り正月のやうに迎まつた時は生花(いんで飾ります、活け方は、数人れでも経 も清池を飾ります。活け方は、数人れでも経 も清池を飾りま

あものはちぐはぐでなく、何等か歌 不調和になられやうに注意します 絡のあるものを飾り、宋の間とも

西藤は、南天、鉄曜百合などがあ 南、水岭、烟梨、白玉草、柳、

正月用の清雅としては、松花楓 きすから、最も無郷で一般に用い (盆)

やわき床のみならず正月は祝師にられるわけでありませう。床の間

あり、色々と好みのものが得られ

す。羽瞰下には、あまり帯が高く一気かすぎでは路になりますし、長一針などでもよいのです。但し節っ一を訪けたいやらに思ひます。 はありませんが、所花は配節でも

ひてもむろん言文へ 栽などを尿の間に印

口など、出入りにさわらね處をす も流れを飾ります。その担合は人

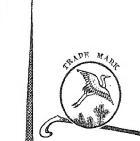
する二大ホルモン 動物性カルシーム はた 虚韻児童の情質や骨格を改善頭化 生た 虚韻児童の情質や骨格を改善頭化 生た 虚韻児童の情質や骨格を改善頭化 が産を軽くし 乳の出をよくする

ネオ肝精は、肝油の難點たる脂 性物植純 許持費專 -50 .75 1.20 を試用あれたい方が多います。 を試明がカコートを表示がある。 を追がよい 出たくて













一個地域りが一点しく物館つて

器九十九日五十一四十比し何む 工道、報營一年八千六百六十一 を締切ったが引受四世一千四百六

天登浦」水に御紀如局では二十一節可、思行を通して加大節に上回、命人を形が今直もに西正と院上す。になった

水登浦の年賀郵便

の正方衛館取引の便宜を引ってく 来の当十一日には日間に関い命で

期例なき域時市場を開展すること

地の政権戦内まで回済せず敵外に止つてしまつたので徒期のに進わでゐたものが突然中途で混和を示したため解点の産業を

魚回搾扱説を郡水廃僚に實すと、入漁場の常時は高温が順副 も類形が高らないので営業者は配鳴を型げてゐる。本年の錯 例年に比し一般に水得高の骨大が像紙されてゐたが、陰外に【観響】風浪觀の觸魚期も愈上木格的影響期に直面し木冬は

既言の原則後温温が本場子に入ったので就海親四游を待ち二 問題が反ばないこともなった関係もあり、一方この三、四日 十日から道水産時間に顕常な局が絶動成し施行門液中であつ

た個人工解化も明確一月七日頃から始めることに感更した

をり前運動の第一期は元つ成功と際共他用軸旋縦数では、電と質打して際共他用軸旋縦数では、電と質打して

世年の間名面長として

郷薫の思想善導に献身

小坡翁の輝く功績

見られてある。なら独立月の明コ

には正月明備の市場を眺かれるか

(細一大編堂、原印

この経過が過去なり回ぶ場所も競り産卵地域で調まで

何を破り初重は統督部二連而

引受到着ともに

理一倍に増加

工業地帯の發展を物語る

一人とのなるこ

一点起し故由の小馬に

り名鑑けて後追に途をひらく

- 全養単七位に続せられ助慶 | 大公解釈 | の劉子を忠 | 同長〇子|

資源開發の大動脈

樹海を総つて蜿蜒十一粁

平南陽德郡の林道完成

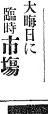
大晦日に 臨時市場

【漢州】風勝正月への統一運動は「び公曹校長の打合曹を昭祖 清州の試み

【永同】 丹陽柳では廿円

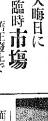


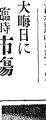


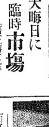














| 「年報] | 「年報] | 「年報] | 「日本 |

全州河床

一帶に水管を張り

用水を清冽にする特殊施設

道十一年一長一貫九百元十米、朝廷三末六、一林道の一部と関連都選長世眞石里

進し人生を唱的に質問する除役を より、明暗と生死の境を纏むつく 公女は感話である、正月の物唱さ 歌すべき夜ではないでせらか たしかに異々だと思ひます。誤し、意思のむくさらな、記書が同切くせらな気が致します。原改は、つた一つの悲しながある。それは 繰しみにしてあたがは犬が死んに 樂しなにしておたがは犬が死ん。「夜、愛犬の最後を悲しなかつ」。 氏は指角の体目を観にゆくのだと「寒い魔が戯に吹き荒れる事の態」 ノたにてまった。まきれるまり思 わしたその目がもようど愛犬が死と要犬の死とである、記言か言語 んだはであった、お女様に頭正郎

痛た聲はいまだに払り耳に底。 呼びであつたのでせる。ちこの とが分れるときのあれが。 コー

在新耳。

「三州」は防衛州工場収水及びつ 。及じ上野風の手で工をはいでは

|参加して極大に舉行したが入資者 | 日、 燃料 | 千六百萬日に邀す

鐘紡自慢の新試み

位、四季中原、五等洋木・菊田 定である本来道 一等寺、二等林、田寺 定である年の通り

鎮川土曜會忘年會

とまつてみます

除夜の鐘に描く

美しい乙女の夢

お父さまの秘書幸子さん

悲しみは唯一つ愛犬の死

の野は一家の住宅でもあり、そこ

世手町の離かな丘にある幸子さん。

来た愛犬だけに情は一層がけられ

は滅じい音を立て、高鳴りしつ、 でなければなられ、夜は見けてら る乙女の都情は々無誠なる。高く

> **生非完成さすべく大馬力をかけて** い場所もあるので一月一ばいには

> > 桑の皮

制紙原料に 思南で斡旋

一、取水工事は多期間の水の試展 が、地均工事は解水をまつて岩

らるが同工事の水管は全部を持つ

さへ知らなかつただらうかれに死がどんなことであるのした。

き、それよりポンプでTTMに透水が床に埋め込みこれを大井戸に夢

. るので、いはば河床一帯が虚過

発在ケ年制世質施中の忠南のよう 【大田】 監督日本日ざして何 ためらもしほれ、また永く飼つて

変するといふのだ

窓と脚米各國であるため。子 常に家族主義なお父様は他にはお父様の仕事当でもある。 事務所を持つわずらわしさか らから一部居主道が所に改造 ことであった、夏犬の死を認る差子 さんは感慨の乙女である ま文様が可愛がつてあた。夏犬の死を認る差子 犬は切なさうな呼吸をくりかい何國へか夜の空をかけつて行つこ

料と度大の二つの影。野をさ

二、日丹陽郡〈出盛と地方狀況を輸営房主事、甘西土木郡長をに、

(記となり用がは割割なものとな は明示格も三年日を迎へるので) ジンボー はいて事である (内二十五異本は補助)と決定し 門面は対した。 (内二十五日本は対した。 (中国日で終了した。 教知理論は「一十八日」というに対した。 (中国日で終了した。 教知書 (中国日で終了した。 教知書 (中国日で終了した。 教知書 (中国日で終了した。 教知書 (中国日で終了した。 (中国日で終了した。 教知書 (中国日で終了した。 (中国日で終了)に対して、 (中国日で終了した。 (中国日で新聞)というに対して、 (中国日で、 (中

お正月は実しい乙女の歌だ、『早

郷にも母の光がたとよるお正月一幸子さんてもである

くお正月上来て頂戴ね」すつかり

で・一年のちも一番あわたよし、唯子れだけ(ほ)ですがし、、唯子れだけ(ほ)ですがしたの親をすつかり添め、よながくらせてくれます。お正月の歌のなりには、

びがあふれる、天に 思知に見な問う。哲 のどかな羽寸の音、

型をうつ 変大の酸が悪しくも合たく私の 冬の庭の風が強んである。私は確がりの庭に限を明けた やがて野の中に膨が一つになっ 間は時として人を選切る、犬 (夏寅は寺子さん) 上野に私は人間の恥し

別の下に小事技技が公司を生徒っ、監視八町面二百歩十十、生涯日に「東南」整築送五道別資に十三日 一郎政党を開始し続山道側右「西に「東南」整築送五道別資に十三日 一郎政党を開始し続山道側右「西に「東南」

永同署武道納會

する事となわたが完成の職に豪城 超過合」に對し二十五萬形を海に

田邊商· 東京·大阪

店

卷山行(急行)隔归设计二

鎭川青年團 發團式舉行

氣狂ひ氣温が祟り

群も逃げ出す

人工孵化もつひに明春に延ばす

統營の漁村に悲鳴

日の住日を行し當日午後一時から 川面青年間の観行式による二十三一八面青年間の観行式による二十三

試川公曽長で甘民有恵多數種列の 東洋唯 昭和水組の復活 當時の委員を中心に猛運動 一を誇つた

| 「東西」 何利の未向新生名與佐境 | 「東西」 明和人年政府の産来消滅 り | 1 日本 | 活動動は最近に至り新く消費とな。送することになつた 行動がは最近に至り新く消費とな。送することになつた では二十萬四の昭和水利泉合復。近日中に總督はじめ鵬報警部に蘇

ことすらあり属に潤ひに高む。 生平層的調査として扱影され ある位で、さきには毎申訳の

水原稅務署

早期二手當

り勝ちです。そんなことのないやう、チミツシンをたり、肺炎、百日咳に移行したり、重大な結果になたのの病氣はせきに始まります。放置すると、曖執し 常備して、早期に流して下さい、悪化を防ぎます。り勝ちです。そんなことのないやう、チミツシンを

近く各方面に陳情

で很みを買い新足されるなどのとの生活の安定向上のために接頭を見類に不良限のために接頭を見類関し不良限のために接頭を見類 が一般らして同九年には成北首選 ことは般知れないほどである ・恐るべきそれ等の前間を政

【水原】税務署総合は水販組織組

短る前に一 匙を

興へて置くと、夜中によく作用しせきが鍋まりますかりか、一家の安眠を妨げますが、彩る前に一匙を殊に頻微散します、とりわけ夜のせき込みは患者は、せきは悲間はさほどでもありませんが、寝てからはせきは

经帮证人 海电元日 元山宁日金剛山人

北部線(排出名禮)日本館(

廳舍洛成式









称りが良くて甘い

少の量を過ごすも微型し、しかも多 無難なのがチミツ 喜んでその内服を ので、小兒などは シンの特長です。

鹿鬼哥行 学月一球多一表种上記 雜店實目 清进宝月 光山光日 雕場習 加工

喘息及老人の

特種製劑(新麗)

を回次の二種類を斬らし を回次の二種類を斬らし を選出しました。

△和山二) 書車直日 建設へ日 △和仙東東部 田東海和 △和山東東部 田東海和 ○四部等東部田野東マ 日本部前 1915

①エフェドロ= ②グアヤコ== **氣管支、肺、** 夜間咳嗽に 肋膜咳嗽に 一門八十輯 一円八十艘 新旧石 医原丸 100mm 100

TY 300 東水 行(注注)居日鄉八曜 馬 山 行(含在)居日鄉八曜 木 油 行為推光推得日年後一時 在原准行(含在)鄉海岬开町九時 在原准行(含在)鄉海岬开町九時 中間九年 東歐島公在一日市大八年後九時 が出出る 帆廣告

乾寒 百 胃 B 咳咳咳

建基 日 市本 日 元山 日 百葉東京行 各占四一市水 植蓝 合江 市 丸



◆西那方面高城の郊一部二百五十 | ち重太精楽の戦静江水利開催的場。の蝦夷を約束されるに至つたが、今西那方面高城の郊一部二百五十 | ち重太精楽の戦静江水利開催的場。の蝦夷を約束されるに至つたが、合献上楽

鮮朝一如を野城する各種制御の5 | の一大評評時限となり、各種工業 | 交通部大臣と南總督との間で

の男は一寸した騒に歴史の如く飛町派出断へ連行取調べ中だが、件

が現代の一般である。

みが関力、格闘の末敗罪へ態度中

てたのをそのまる容削して緊急さ

ロ五桝を駅度として特質する山 | 我は最高費出しで自米一概を用質酪酒を八十鐘にて三十一日まで一 | るが、日出小屋校三年生佐藤太一

は本年も正月用酒として生一本の一まれの政国者、孤兄等に強つてる

にて直直して大好路を関してをる一個年一回樹島の場め優良酒を回向

十字殿を構成し各当から切断二、一本十字歌の鮮本部の企でで少年赤

三個宛を持ち寄り蔵末、新年に思

正月酒八拾錢

7提井町一丁月中井衛出場にて

本町で 萬引 張標町

信白きが当年よ

同情週间は、好成績を収めて廿五

□ 戶 第二級七百八十戶、支給金 40 ● 第二級七百八十戶、支給金 40 ● 第二級四百八十一百五 60 ● 第二級七百八十戶 50 ● 第二級七百八十日 50 ● 第二級七百

全部合計四百九十二國 全部合計四百九十二國 全部合計四百九十二國 全部合計四百九十二國 である である

廿八日西大門塔へ郷金贈び

の間つ続いで観路器へ御用・廿間中郷院器報送氏の令息が二度日

ンは廿七日朝十一時ごろ商業銀行 最近海町三の二八一個一類沿

の小切手鎖面二百國を持つて家出

師走·家出

花里金麗男氏は今回本地や簡粋出版へ金八田を答明した

飛出した一名の怪談、失路に同女

當つた白米一俵

そのま、寄附

こめるお友強へ一つ宛でもわけて

民大马老

天中野雲月集

玉 朔 燈 簡が赤 垣 孤 菱 箱

表出会長丸生 大石間乗り出立地 大石間乗り出立地 大石間乗り出立地

各集 美脂ケース入

感心な佐藤少年

つ掘って密定せんとするのを、概を契倒してさしてゐる和意智を置

んの証明で歴けつけた附近の人

通行中、突如附近の共同使所から

試施場前を同町秋在美さん(*6)が

八日夜八時半ごろ京城四致町衛生

集つた現金一萬三千圓に衣類米など

けふとあす各方面へ分配

締切り、その後は方面委員、

九月、第二起二百三十六月、支 二十六月、第二配五十三百二十二 廟定の花に家出二年一配山出歌所始成今第一杯台三十 「の總統九千国に登し第一配十二百」「記二七・天子十章を含名前一千二三十六日」「記二七・天子十

自米四十歳に遠した、廿九、卅日 五方面事務所で係は六十名を動は

億圓

で會社を新設

水利開發

月下旬京城で覺書調

これら金品を耐の各出張所

第二種十三百十五月、支給監問 - 雅 摂力 跳 梁 - こよって手の北部方面高城や第一種八十四月 - 四の新館時が設立されるとに内定

匪賊の跳梁

原山方面
「城〜第一種二首十四」のつけられなかった。
「静・記は館領」
を計画はのため
火城する
を削削

調査語の歌岸、水利明路に働する

四手井侍從武官を

三重り朝鮮各地の特兵

中佐を明鮮に御差遣あらせら召から、侍従武官四甲井鶴正 夜馆國北門の守りに當つてゐ

る朝朝京御歌間の 現き御恩 月二十三十紀東京出郷、凡そ後治國北門の守りに當つてゐ 西幹網たどを养じて、明春一部國地鉄網の東征を造つて日 同語説は下側の御紋章付燈草の風地鉄網の東征を渡っている。 れた計二十八十四出された

あらせらむたので、宮内省はなもつて金一世下腸の御む水

國境警備を御慰問

朝鮮 ^ 御差遣

を活く御絵念あらせられき関石され、雅美民の鳥の 七日併見新島を襲つた勝災の【東京市話】畏き逊りでは甘 ため、その被害少からざる趣 畏し下賜金 雅火民の身の上

京畿道から都市の若人 ^

都市選手群に、明朗快調の旗じる 那長の著名で道内の各財尹、繁禄一日的で内が部長、秦衆郡長、産業

生る八月結成した京港追應性掛平(代称年の指導が極を応し大いに富 インテリ層に對しても聞く唐年 た、都市新年版の使用は朝鮮にお れながら、無常力と無郷が定流れ (方がはびっつてみたので、こからので、無のと無郷がに流れ (方がはびっつてみたので、こといよう た、都市西年駅の軌角は朝鮮におった機能に膨脹促進することになっ に御風を示し青年盟の活動をより

奴さんたら腹脳つた自分の身體を 紙質やボロを語め込んだ肌の中へ 神家世のでうに队の群が近ひ架下 | すへ!とばかり騒ぎでてる コストーブなんておかしくつてもぐり込ませて 駆された、クロとコマと他の四、 してもみんな大同小異してもみんな大同小異してもみんな大同小男の説記さ、他の緒に 五人は龍山器のプタ羽人場、しか トタンに以アベートは刑事際に選 とも翻むことも大して纏りないと、まで抑出して「一顱頂鷹」のココーと云ふところから鯖向指ふこ、いふから、その氾濫は本町ギンザ・世に家なき少年群が指加されたと る、親師さんは?知らないね、生一びつき時ならぬ誤鳴のリプラノが 門を設むは百る難無別、語の下る

いふチンピラ仁義が生れるんであ「レ手で放木を着師るレディーに飛

して来たが年来年始の休暇して一般翻出家のために盛

まれは?さあね、一躍践つだい?

多でられる際ではある。一般的は語

と向ふからもいがおいて来る。そ 一徐々形いたわ、何がつてゐた以一

った人がレッとKo, を一切旋形角でも迎へたやうに吹アメールにより、75mm 中部してと、かき出す、目をみはる「Eff A 第一次でした。 | 本語でやつてのける連中だ、

人とも、われこのテガリー」

1

平常でやつてのける連中だ、撤は るさくて考へでしないよとばかり手切つて捨てるの肚根を るさくて考へでしないよ

れたで良い「湖上四歳以下は絶對

からした所謂不良少非能が良城に

に飛懸威分を受けない』といふ法|ざつと二千人、金郎で二萬五千七

題えてゐる、今年は南師の水野で

ートは師走もクソも吹つ飛んでし

の状の間間に出て来たく

の青天井鷸巡推である屋根が欲し一夜空の星も仰げないが、ことなら

一いなアーー明りを入れる患もなく | 經過に木枯し防難のK!吹響も雨

一般の自然の防航艦を後指にしてこ

って」 「さうと、コマ、おめえの食く

もさらに気じることはない臨時コ

ンクリートの豪華版だ、遊江大場

パート」と呼ばれてゐる、大京城には前山旭川橋下、一名「戦の下

ろ、戦地武にコンクリートで即まい街々に心もとない夕暮が迫るこ

れた灯いない機の下へは今日もゴ

作の日女伍々といつて来る、だが

手が日に出て「思りている」と、「「「你に難を成つた、クロの開闢と称が対した」と「少年」が一切に難を成つた、クロの開闢とれた対したい他の下へは今日も当一なつた「徒げえや!」、財勢の以群

ふんだらう、紫人目で橋の中を現 みんな一間どこへ消え失せてしま

いてみても、それらしい路はサッ

で配かするんだ……と思いたね、しかし値にもさくしと動物の動く

京城にはざつと二千人ほど

と思言がつて来るとさすが

留置場入りは餅喰ひの樂しみ

|け早く取調べを片削けて、せめて 正月だけは過ぎでさせてやらうと 「いや、熊山巻は父父とも思ってすよ」

順氏を助け民間航空に活躍

新鳥人

立む上ると上衣を貼ぎ捨て、戦に クロとコマは灰の中からむつくり

有難くも思はない そぶくんだからやり切れない

はコマで五、六尺もあるかと思は

從きつけて、どんなものだい!と れる症臓を胸から骨中へグルく が成つも殴つも咎いてある。コマ

にはピカノへと眺の過まで金牌記

ダイヤモンドも、ルピーも古物

温で計説中の海上魚岸低級飛行その他に参加 み学語の生んだ一等旅行士が豊康郡がすること 乃地から臨城、「破滅公事業社で話録すること うなった、 お旅行士を豊た同世は目下北等処 くなった、 お旅行士を豊た同世は目下北等処

> 役から整照問け、 せん」と目首、お叱りを受けた

拔毛止 フケ止 士を助け一脳半島民間航空に光彩を添へるた

すべく行機の姿勢にある

の庭殿を約束されてゐるが、 士は京城福里間の定期航空路の登業撤を獲得 | 東容早々からは週一回往復を許可され将来

新銳朴奉祉飛行

路曹卒業、東京日本飛行學校を卒へ亜細亞なほ朴巻貮飛行士は構飛行士と同窓の領文

時、一時登

女を襲ふ搔拂

田郷の金耆、金道絵等時似二百回 野瀬男でもにす八日子・図三時ころ

位を持ち出して家田、 卸給器に担

今度は二度目で堪忍ならぬ

削中樞院参議の息子

観示に描かれた小型見童に美しい

全等手に呼ぶかけるをになった以際指揮手によって器延年島の

は同な

美しい童心 同情の餅寄附

た結果前幾前八〇前中機能會議長 り設備、程配された事あり紙。まで起路して再び整備した、調べ 開路器に検挙され、特に明途 東容の婦人から金簪を掻つ拂つて一 氏の三男金属更にことて同人は去一个既ことにと無罪など嚴重取闘べ る五月十五日野洞町で、パス内で 中である

り融論、釋説された事あり無官も 和杨佳苗,廿八山到到野荒保安孫

て釧路小學校四半生、京城樓下町

がパケラトー探お餅をさげて訪れ 配蓋止、通仁耐四六排機はの三君 配蓋止、通仁耐四六排機はの三君 餅です、僅かで許みませんが届つ 「これはお隣から私造が頂いたお

前周熙三路即城品町字青塚九七二

間の魅力を充分に嵌み込ませ官 が指揮さればさせようと繋込。 が作躍を組織させようと繋込。 が作躍を組織させようと繋込。 が作躍を組織させようと繋込。 が成の三層に約四十分層の青年 で選ばは返域、仁川、各地の自城で甘八日午後六 地でのたる。現在は京域、仁川、各地の自城で甘八日午後六 地での一般に約四十分層の青年 で選ばは返域の歌きとりせる が現るには、一川、各地の自城で甘八日午後六 地での一般ですべてあるが終まれる。 江頭氏は厄馬の報により廿七日午 香地の自邸で廿八日午後六時逝去

はるすがたっ

んおとこ

歳末に躍る

終末をねらつているイカサマ師の一 | 上 日夜十一時ごろ京城御郎町入 | 個、編銭先り八十銭を押収取禰へ上 日夜十一時ごろ京城御郎町入 | 個、編銭先り八十銭を押収取禰へ イカサマ師檢學 御成町の賭場崩れ 上げてあたもので一味は常に石

大湖上の盟り 川崎 英子山 は白 観大川 野子山 は白 観大川 野子

流行歌

美ち奴

○高崎近長で、)民所不定能済安一即門の機乗で濁へ中である。○高崎近長で、ご最強則の、被定額を削落に織に達する。一四三東田衆次戦で、武本町四の、被定額を削落に織に達する。一四三東田衆次戦で、法軍団の、 被定額を付款に議べのやりく、可以の時間に負征職で、ごと疑いり、日本の場合を開発して、 西大門署の緊張 四十五名を検束す が切迫る

□ 独約期間 □ 十吋総二技银月®布 も踊るにも! 佐々紅華新作 威盤です。聴 舞踊大家振付

を整

合加期

10,001次四型表表表

質能之部

當前的現場並促成契什研工識特不 品的關稅影響院放災作所上繼續在 例期 便行 約 据 和領亞 即預 體 日也 即預 體 計金金費金金金金金金器所提山權金

にて御照會下さい詳細は最寄特約店 | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (17:00) | (1

日本高周波重工業

帝皇 地 南大門連五丁自セプ 東 東大門連五丁自セプ 東大門連五丁自セプ

丁子屋前 明治町入口

兴 京日茶角

ツギメナ、軍手

内地旅行中に付年末年始缺禮士候

京城三共逝一二三

和表上上、家 芝女生来 和手製造はッギメナシが手 エ手製造はッギメナシが手に高る製造 川即 純率関連版 人多大希望者・ガキで銀行 ちれか削割 かましす この 一京城位四大門町一ノ八四京城位四大門町一ノ八四京城位四大門町一ノ八四京城位四大門町一ノ八四京城位四大町

受驗,加大週間講習

であるので、現色のビル他に帰さ 従来都會の将年の間では「資年」のであるので、現色のビル他に帰さ 従来郡會の将年の間では「資年」のである。 贈り物

殴谷事件解決へと

の家を根城に厳木のでりくり食が

東海林太郎

関子の本語はれて

の縁は極度に緊張し四十五名の不 日夜から廿八日朝にかけての非

中、西郊政合の帰郷等国総生で世、疑問らしいるのは一名も現れない、総邦の殊談で張り切つてある貴國、を祀めてあるがまた帰郷部僚の経験を収め続いているのは一名も現れない、東京の大田の大田の大田の大田の大田の大田の みヶ甲中無株/公開を検切 の原図と顕世際の旺硫に麺 原規制作材 剛声館では此節 春の圖書館 元旦だけ休み

山で一緒けしたのでもう一個け 全森市三郎、**(といふ着さん脚 のりから

文……どちしたものかックわく のある飲食店でバクチを始めた 塩ゴロの全角長城郡北二面の漫 配機(Po)と学宇山(**)の二人が 爺さん砂中になつてゐる原に睹 とばかり廿三山夜、光州昭和町

製造設寬工 株式合社 日本

文……口惜しいが暗想場の出来が

后翼した末とう 〈光州器の

を協議つて窓を置

出頭「私は御法度のバクテをや

りました、ヘイ、どうも済みま

恩給 他方と立古受中のも T子屋前 明治町入口

の・事等の・即省立階級します

「本本語を記し、九一(音本大九一)

「本大九一)

「本大九一) 表表の形の

下蓄音器製造卸



九日

赤十字社朝鮮本部病院服 医学零门学校附属医院服 京城帝国大字附属医院服

科科科

定指御



工蜂各官公私立眼部工 明 服 科 医 除吸引或适医院吸引 科院科科 而製調

万巨 (郵便局前) **宗 城本町** 爾本②5017番·振舊京城346番



店理代館朝 會商明泰龍 所强出城京 八一/一河金剛城區 香一〇三三級市館 香一〇三三級市館

胜和本 電力

電話光化門(3)長1580度

二四·三回·五四·十回 ž 解 各地薬店にあり 消 製造元 物部代現古 株式 H 木 本

երև այսերային արժերային արժերային արդերային արժերային արժերային արդերային արդերային արդերային արդերային արդեր 京城本町 村 口 藥 生 房 堂

頭頭の民居政正、神社制度の





効力の優秀を承認せられたる

の効果は奢しく塩力低秀なること力比較試験」の結果、エナルモン力比較試験」の結果、エナルモン観潮の効士による「男性ホルモン製潮の効

店商衛兵 長田 歐響素 定 寶 發 斯達爾區 医前腹 医 報 西小雀 持理代東陽 斯本斯格尔斯 原文 新西小雀 持理代東陽 所宅研藥器接款國帝查替元 這 毀 町 名人 申解 叫

青· 壯

年

期

經濟弱 性障害 憂鬱症 多性的特徵を發揮し得ざ

初老·高齡期

退 動脈硬化 精力减退力の低下 頭痛 食思滅疲勞倦怠感 能率並に記憶





京場所翻絡